

## 第32課 準備のための聖書日課

### 10月31日(月) 詩編6:1-11 祈りを受け入れる主

1【指揮者によって。伴奏付き。第八調。賛歌。ダビデの詩。】

2主よ、怒ってわたしを責めないでください

憤って懲らしめないでください。

3主よ、憐れんでください

わたしは嘆き悲しんでいます。

主よ、癒してください、わたしの骨は恐れ

4わたしの魂は恐れおののいています。

主よ、いつまでなのでしょう。

5主よ、立ち帰り

わたしの魂を助け出してください。

あなたの慈しみにふさわしく

わたしを救ってください。

6死の国へ行けば、だれもあなたの名を唱えず

陰府に入れば

だれもあなたに感謝をささげません。

7わたしは嘆き疲れました。

夜ごと涙は床に溢れ、寝床は漂うほどです。

8苦悩にわたしの目は衰えて行き

わたしを苦しめる者のゆえに

老いてしまいました。

9悪を行う者よ、皆わたしを離れよ。

主はわたしの泣く声を聞き

10主はわたしの嘆きを聞き

主はわたしの祈りを受け入れてくださる。

11敵は皆、恥に落とされて恐れおののき

たちまち退いて、恥に落とされる。

深く苦しみ、悩み、不安の内にある者の祈りです。嘆きと願いが交互に述べられています。祈りとは自分のありのままをさらけ出し、願いと訴えを正直に神に述べるのが許されています。嘆き疲れ果てて、寝床で涙を流す夜があったとしても、イエスキリストの与えてくださる平安のうちに希望を見出せるよう、祈り求めていきたいです。

## 11月 1日 (火) 詩編33：1-11 主の企てはとこしえに

1 主に従う人よ、主によって喜び歌え。

主を賛美することは正しい人にふさわしい。

2 琴を奏でて主に感謝をささげ

十弦の琴を奏でてほめ歌をうたえ。

3 新しい歌を主に向かってうたい

美しい調べと共に喜びの叫びをあげよ。

4 主の御言葉は正しく

御業はすべて真実。

5 主は恵みの業と裁きを愛し

地は主の慈しみに満ちている。

6 御言葉によって天は造られ

主の口の息吹によって天の万象は造られた。

7 主は大海の水をせき止め

深淵の水を倉に納められた。

8 全地は主を恐れ

世界に住むものは皆、主におののく。

9 主が仰せになると、そのように成り

主が命じられると、そのように立つ。

10 主は国々の計らいを砕き

諸国の民の企てを挫かれる。

11 主の企てはとこしえに立ち

御心の計らいは代々に続く。

主を賛美することの勧め(1-3)、主を賛美する理由(4-7)、そして主への恐れ(8-11)が語られています。私たちも心と声と楽器で主を賛美しましょう。主を畏れるとはどういうことでしょうか。私たちを取り巻く日常は変化します。しかし神は何があっても変化することはありません。私たちを愛してくださる神をいつも信頼し委ねて生きる時、神が与えてくださる赦しと恵みに気づき、私たちのうちに主を畏れる心が生じるようになります。

## 11月 2日 (水) コリントI 4：1-5 神の計画と人の企て

1 こういうわけですから、人はわたしたちをキリストに仕える者、神の秘められた計画をゆだねられた

管理者と考えるべきです。2 この場合、管理者に要求されるのは忠実であることです。3 わたしにと

っては、あなたがたから裁かれようと、人間の法廷で裁かれようと、少しも問題ではありません。

わたしは、自分で自分を裁くことすらしません。4 自分には何もやましいところはないが、それでわ

たしが義とされているわけではありません。わたしを裁くのは主なのです。5 ですから、主が来られ

るまでは、先走って何も裁いてはいけません。主は闇の中に隠されている秘密を明るみに出し、人の心の企てをも明らかにされます。そのとき、おのおのは神からおほめにあずかります。

パウロは「キリストに仕える者」「神の計画をゆだねられた管理者」であり、他の人からどう評価されようが、裁かれようがどうでもよいことでした。神さまから与えられた使命に対して忠実に仕え、神さまのみ前で裁きを受ける覚悟を決めています。へりくだった心で神さまにすべてをお委ねしているパウロの信仰からはいつも学ばされます。

### **11月 3日 (木) エズラ8：31－35 エズラの三日間**

31 わたしたちは第一の月の十二日に、エルサレムに向かってアハワ川を出発した。道中待ち伏せる敵の攻撃も、神の御手に守られて、免れることができた。32 エルサレムに到着し、そこで三日間休息を取った。33 四日目に、わたしたちの神の神殿で金銀、祭具が量られ、ウリヤの子、祭司メレモトの手に渡された。ピネハスの子エルアザルがそれに立ち合い、レビ人のイエシュアの子ヨザバドとビヌイの子ノアドヤもそばにいた。34 数にも量にも間違いはなかった。数量はすべてそのとき記録された。

35 捕らわれの地から帰って来た捕囚の子らは、イスラエルの神に焼き尽くす献げ物をささげた。雄牛十二頭を全イスラエルのために、また雄羊九十六匹、小羊七十七匹、贖罪のための雄山羊十二匹をささげた。これらはすべて主への焼き尽くす献げ物とした。

エズラが人々と共に4か月かけてエルサレムへ上っていきます。当時の長旅は強盗や野獣に襲われることも多く、まして神殿で用いる高価な装飾品を運んでいたため狙われるリスクは高かったようです。しかし神の御手がエズラ一行の上にあったので道中は守られました。到着後三日間の休息を取った後、荷物を祭司に渡し、全焼のいけにえをささげ主を礼拝しました。私たちと共にいて共に歩み守ってくださる同伴者なる主に感謝します。

### **11月 4日 (金) ルカ2：41－52 神殿で三日過ごす少年イエス**

41 さて、両親は過越祭には毎年エルサレムへ旅をした。42 イエスが十二歳になったときも、両親は祭りの慣習に従って都に上った。43 祭りの期間が終わって帰路についたとき、少年イエスはエルサレムに残っておられたが、両親はそれに気づかなかった。44 イエスが道連れの中にいるものと思い、一日分の道のりを行ってしまい、それから、親類や知人の間を捜し回ったが、45 見つからなかったので、捜しながらエルサレムに引き返した。46 三日の後、イエスが神殿の境内で学者たちの真ん中に座り、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。47 聞いている人は皆、イエスの賢い受け答えに驚いていた。48 両親はイエスを見て驚き、母が言った。「なぜこんなことをしてくれたのです。御覧なさい。お父さんもわたしも心配して捜していたのです。」49 すると、イエスは言われた。「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」50 しかし、両親にはイエスの言葉の意味が分からなかった。51 それから、イエスは一緒に下って行き、ナザレに帰り、両親に仕えてお暮らしになった。母はこれらのことをす

べて心に納めていた。52 イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された。

ルカ福音書が書かれた時代（AC80 年頃）は、すでにエルサレム神殿は崩壊していました。ルカが言う「神殿」とは特定の建物や場所ではなく、「父のところ」であり、本来イエスさまがいるべきところ。イエスさまこそ神の宮なのです。そしてすべての人の祈りの家でもあります。

### **11月 5日（土）ヨハネ2：13－22 三日で神殿を建てるイエス**

13 ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。14 そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。15 イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、16 鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。18 ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と言った。19 イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」20 それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。21 イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。22 イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。

神殿をビジネスの場に行っている商売人や両替商らに対してイエスさまは激怒されます。なわで鞭を作り、商売用の台を倒してお金をまき散らし人々を追い出します。なんだかイエスさまらしくない行動ですね、でも父の家の主として毅然と宮清めを行ったのです。父の家はこのような商人たちが暴利をむさぼり、それを容認している祭司たちのための場所ではないのです。

### **11月 6日（日）ネヘミヤ2：11－20 良い企てへの備え**

11 わたしはエルサレムに着き、三日間過ごしてから、12 夜、わずか数名の者と共に起きて出かけた。だが、エルサレムで何をすべきかについて、神がわたしの心に示されたことは、だれにも知らせなかった。わたしの乗ったもののほか、一頭の動物も引いて行かなかった。13 夜中に谷の門を出て、竜の泉の前から糞の門へと巡って、エルサレムの城壁を調べた。城壁は破壊され、城門は焼け落ちていた。14 更に泉の門から王の池へと行ったが、わたしの乗っている動物が通る所もないほどであった。15 夜のうちに谷に沿って上りながら城壁を調べ、再び谷の門を通過して帰った。16 役人たちは、わたしがどこに行き、何をしたか知らなかった。それまでわたしは、ユダの人々にも、祭司にも、貴族にも、役人にも、工事に携わる他の人々にも、何も知らせてはいなかった。17 やがてわたしは彼らに言った。「御覧のとおり、わたしたちは不幸の中であえいでいる。エルサレムは荒廃し、城門は焼け落ちたまま。エルサレムの城壁を建て直そうではないか。そうすれば、もう恥ずかしいことはない。」18 神の御手が恵み深くわたしを守り、王がわたしに言ってくれた言葉を彼

らに告げると、彼らは「早速、建築に取りかかろう」と応じ、この良い企てに奮い立った。

19 ところが、ホロニ人サンバラト、アンモン人の僕トビヤ、アラブ人ゲシエムは、それを聞いてわたしたちを嘲笑い、さげすみ、こう言った。「お前たちは何をしようとしているのか。王に反逆しようとしているのか。」 20 そこでわたしは反論した。「天にいます神御自ら、わたしたちにこの工事を成功させてくださる。その僕であるわたしたちは立ち上がって町を再建する。あなたたちには、エルサレムの中に領分もなければ、それに対する権利も記録もない。」

ネヘミヤは夜こっそり崩壊した城壁の様子を見回りましたが、それは聞きしに勝る散々な状態でした。「もう一度城壁を築こうではないか」と呼びかけ、神の御手が恵み深く守ってくださり、王が話してくれた言葉も人々に伝えました。反対しあざける者たちには「お前たちこそエルサレムには領分も権利も記録もない」と言い返しています。私たちがイエスキリストを信じる信仰によって前を向き希望に向かって前進することができますように。

(担当：宇佐美 典子)